

フィリピン支援 アムダ職員派遣

フィリピンを30日に襲っ

た大型台風21号で、同国東部のアルバイ州を中心に、多数の死者、行方不明者が出ていることから、岡山市に本部を置く国際医療支援

NGO・AMDA(アムダ)は2日、現地に本部職員ら第一次チーム4人を派遣した。

フィリピン赤十字によると、1日までに少なくとも388人が死亡し、96人が行方不明になった。犠牲者の大半はマヨン火

山(2460メートル)で発生した泥流によるもので、死者数はさらに増える見通し。

2日早朝、本部職員の館野和之さんが岡山市を出発。現地でAMDAの日本人調整員や、インドネシア人医師ら3人と合流し、求められている救援内容を調べる。

マヨン火山は7、8月に小噴火を繰り返して斜面に火山灰が積もり、今回の台風の大雨で、それらが泥流になって流出。火山活動の終息に伴って避難先から自宅に戻っていた住民約4万人のまちを襲った。